

【ダリ年譜】 (松岡茂雄作成)

1904年 ◎5月11日、スペイン、アンブルダン地方フィゲラスで誕生。洗礼名サルバドール・フェリペ・ハシント・ダリ・ドメネク

◎9ヶ月前に年輪1才10ヶ月で早世した兄と同名に。

◎父サルバドール・ダリ・クシ(公証人)当時41才。母フェリパ・ドメネク・フェレス

1908年 ◎1月、妹アナ・マリア誕生

◎フィゲラスの公立幼稚園へ。園長エステバン・トライテール。少年ブチャケスと親しい関係。

1910年 ◎私立の学校コレギオ・ヒスパノー・フランセへ。以後6年間ここで学ぶ。

1916年 ◎父の親友ピシヨット一家のカダケスの別荘(後に父が取得)で夏を過ごす。画家ラモンの影響で印象派に興味を抱く。

◎フィゲラスの公立美術学校で、フアン・ヌニエスの授業を受ける。

1917年 ◎父が自宅でダリの木炭デッサン展を開く。

1918年 ◎カタロニアの雑誌にイラスト掲載。

1919年 ◎フィゲラス・コンサート協会のグループ展に参加。地方紙が賞賛の記事。父の友人が作品購入。初めて絵が売れた。

1920年 ◎フランスの印象派、マネ、ドガ、ルノワールを生涯の指針としたいと、叔父に手紙。

◎画家になりたいなら、マドリードのアカデミーで勉強し、教師の資格をとれ、と父に説得される。ダリは賞をもらってローマへ行き、そのあと天才として賞賛されると決意。

1921年 ◎2月6日、母が死去。まもなく父が母の妹カタリナと再婚。

1922年 ◎1月、バルセロナのダルマルウ画廊で、カタロニア学生会主催のショーに《微笑むヴィーナス》など8点の作品を出展。好評。

◎マドリードのアカデミア・デ・サン・フェルナンドに合格。受験には父と妹が同行。マドリードに移り、学生館に入居。

メルセデス・ピシヨットの夫が館長のアルベルト・ヒメネス・フラウドに推薦。ブラド美術館に通う。ロルカ、ブニユエル等と知己に。

◎ペビート・ピシヨットがパリから持ち帰ったカタログや、叔父の本屋にあった雑誌でキュビズムに接触。

◎フロイトの『性理論』を読む。

1923年 ◎学生デモ先導の理由でアカデミーを一時的放校。フィゲラスに戻り、フアン・ヌニエスのもとで版画を学ぶ。父は版画の印刷機をダリのために購入。

1924年 ◎5月24日、父の政治活動との関連で投獄される。ヒローナの監獄で1ヶ月過ごした後、証拠不十分で釈放。

◎秋に美術アカデミーに復帰。

1925年 ◎イースターをフェデリコ・ガルシア・ロルカとともにカタケスで過ごす。文通がその後も数年間続き、肖像やデッサンを交換。

◎5月にマドリードで、イベリア芸術家協会の第一回サロンに参加。

(1925年) ◎11月14～27日、バルセロナのダルマウ画廊で初の個

展。作品は《座る少女》、《後ろ姿の座る少女》、《窓辺の少女》、《ラモネタ・モンツァアルヴァエスの肖像》、《父の肖像》、《人物のいるエンボルダ風景》、《カダケス風景》、《妹の肖像》2点、《人物横顔》、《静物》、《パネルに描いた人物》、《マリア・カルボナの肖像》、《ヴィーナスと水夫》、《ピエロとギター》、5点のデッサン。

◎個展の大成功をロルカに知らせる。

1926年 ◎1月、マドリードのカタロニア現代美術展に《窓辺の少女》、《ヴィーナスと水夫》出品。後者はダリ追放の原因となった、画家のダニエル・ヴェラスケス・ディアスが購入。

◎4月11～28日、パリとブラッセルへ旅行。叔母(継母)と妹が同行。ロルカを通じて知り合いになったマヌエル・アヘレス・オルテイスがピカソを紹介。ダリはピカソに《フィゲラスの少女》と《出発》を見せた。ブニユエルの案内でパリとブラッセルを見物。

◎6月、試験を拒否し、アカデミーを最終的に追放される。フィゲラスに戻り、画業に専念。

◎10月、バルセロナの初回「秋のサロン」、《縫い物をする少女》、《岩の上の人物》を出品。

◎10月16日～11月6日、ミロやラモン・ピシヨットらと共に、ダルマウ画廊でカタロニア現代美術展に参加。《月明かりの静物》、《人物》2点を展示。すべてアヴァン・ガルド。

1927年 ◎前年12月31日から1927年1月14日にかけて、バルセロナのダルマウ画廊で第二回目の個展。21点を出品。作品は《3人の人物のコンポジション》、《アナ・マリア》、《巻き毛の少女》、《縫い物をする少女》、《パン篋》、《カダケス港の風景》、《ラネルの岩》、《岩上の人物》、《フィゲラスの少女》、《崖》、《出発》、3点の《静物》、《ハーレクイン》、《二人の人物》、《静物》、《砂に横たわる人物》、《海辺のテラップ》、《頭、ギター、マンドリン》、《海岸を走る人物》と7点のデッサン。

◎2月28日のラミック・デ・レザール紙は、ピカソの近作を踏襲と批評。

◎ピカソのディーラー、ポール・ローゼンバーグがこの個展でダリに関心を示し、手紙を寄越すが、ダリは返事せず。

◎2月1日、ダリはフィゲラスのサン・フェルナンド城で12ヶ月の兵役に。

◎6月24日、ロルカの芝居「マリアナ・ピネーダ」が開幕。セットデザインと衣裳を担当。

◎7月31日、ラミック・デ・レザール紙に「聖セバスチャン」を寄稿。

◎9月、ミロとそのディーラー、ピエール・レーブがフィゲラスを訪問。《器官と手》、《蜜は血よりも甘い》を見る。ミロと違いレーブは「他人に影響されすぎると批評。

◎10月、バルセロナ秋のサロンに上記2点を出品。

◎1月、バルセロナ、ダルマウ画廊の前衛芸術宣言展に参加。《海岸の男女》、《女性ヌード》、《海岸の二人の人物》

を出品。

(1928年) ◎2月、ロルカがグラナダで発行したシュルレアリスト雑誌「ガロ」にエンブレムと挿絵。

◎5月、フィゲラスのカジノで開かれた展覧会に9作品を展示。《静物―睡眠への勧誘》、《器官と手》、《蜜は血よりも甘い》、《ハーレクイン》が含まれていた。

◎9月、シュルレアリスムにかぶれたダリは、ロルカの「ジプシー歌集」を代わり映えしないと評し、二人の中が冷めはじめたが悪意はなかった。「シュルレアリスムは逃避の一手段だが、重要なのは逃避それ自体だ」と彼は、ロルカ宛ての手紙に書いた。

◎10月、サラ・パレスで開かれた第三回秋のサロンに《親指、海岸、月と腐った鳥》、《海岸の人物(癒されない欲望)》を出品するが、後者はワイセツなので画廊に暴力が振るわれるかも知れないと、展示のディレクターから拒否される。

◎10月18日～12月18日、ピッツバークの第27回国際展に参加。《パン篋》、《後ろ姿の座る少女》、《アナ・マリア》を出品。

◎10月22日～11月6日、バルセロナ、ダルマウ画廊での冬の展覧会に参加。1月に展示した3作品《海岸の男女》、《女性ヌード》、《海岸の二人の人物》を再度出品。

1929年 ◎1月、ルイス・ブニユエルとフィゲラスで会い、映画『アンダルシアの犬』の脚本を書く。ブニユエルは4月2日から17日にパリで撮影。

◎3月20日、マドリードのポタニカル・ガーデンで、パリ在住のスペイン人絵画彫刻展が開かれた。ダリは《不胎の試み、後の小さな遺骸：セニシタス》、《女性のヌード》、《蜜は血よりも甘い》、《海岸の男女》を出品。

◎4月の第2週にパリへ、6月初めまで滞在。ブニユエルの撮影を手伝う。

◎ミロから激励の手紙をもらっていたダリは、彼の紹介でパリの社交界に入り、刊行物で知っていたトリスタン・ツァラ及びシュルレアリスト・グループと接触。マグリット、アーブ、カミーユ・ゲーマンスと知り合い、ゲーマンスはダリをポール・エリュアールに紹介。秋にゲーマンスの画廊で個展を開催することを契約。

◎6月6日、「アンダルシアの犬」レビュー。7月3日、ノアイユ子爵邸で上映。10月1日よりパリのステュディオ28で公開、8ヶ月のロングラン。

◎夏、カダケスのダリをゲーマンスとそのガールフレンド、マグリット夫妻、ブニユエル、ポール・エリュアール夫妻(ガラ)と娘のセシルが訪問。ダリは《陰鬱な遊戯》(エリュアールがダリの同意を得て命名)を見せ、ガラはダリに糞食症と疑われていると忠告。

◎9月、一行はカダケスを去るが、ガラは数週間残る。

◎10月6日～11月5日、チューリヒのクンストハウスにおけるグループ展「抽象とシュルレアリスト 絵画・彫刻」に参

加。《女性のヌード》、《水浴者》を出品。他の参加者は、アーブ、ブランクーシ、デ・キリコ、エルンスト、グリス、カンディンスキー、クレー、マグリット、マッソン、ミロ、モンドリアン、ピカビア、ピカソ。

(1929年) ◎11月20日～12月5日、パリ、ゲーマンス画廊でパリの展。11作品と数点のデッサンを展示。ブルトンがカタログの序文を書く。

◎ブニユエルがカダケスへ来て映画『黄金時代』(ノアイユ子爵プロデュース)の脚本をダリと協議。《聖心》に記された文章をめぐる親子の争いをブニユエルが目撃。

◎12月末、ダリはパリへ帰る。翌年初頭に父から絶縁状。

1930年 ◎勘当した父への復讐として《ウイリアム・テル》制作。ブルトンが購入。ポルト・リガットに漁師小屋を購入。住居に使用。

◎ブルトン、エリュアール共著『無原罪のお宿り』へ挿画。

1931年 ◎《記憶の固執》。

1934年 ◎《ウイリアム・テルの謎》でシュルレアリストたちから弾劾を受ける。

◎ニューヨークでの個展成功

◎《内乱の予感》、スペイン市民戦争勃発、ロルカの死

◎タイム誌の表紙に登場

1937年 ◎《ナルシスの変貌》

1938年 ◎ロンドンにフロイト訪問

1939年 ◎NY万国博

1942年 ◎『わが秘められた生涯』出版

1946年 ◎ヒチコック『白い恐怖』の夢のシーン制作

1948年 ◎父と再会

1949年 ◎妹が『妹の見たサルバドール・ダリ』をカタロニア語で公開。ダリは激昂。

◎《ポルト・リガットの聖母》

1950年 ◎9月21日、父死す。

1951年 ◎《十字架の聖ヨハネのキリスト》

1954年 ◎《超立方体的肉體》

1955年 ◎《最後の晚餐》

1969年 ◎ガラのためにブポル城購入

1971年 ◎モース夫妻、クリーブランドにダリ美術館開館、1982年フロリダ、セント・ピーターズバーグに移転。

1974年 ◎フィゲラスにダリ劇場美術館をオープン。

1976年 ◎『ダリの告白できない告白』出版

1979年 ◎ドイツ語版『プレイボーイ』誌にインタビュー掲載

1982年 ◎ポルト・リガットでガラ死去。遺体はブポル城に。

◎ダリ、ポポル侯爵に叙爵。

1983年 ◎《燕の尾》

1984年 ◎ブポル城で火災、火傷を負う。

1989年 ◎ダリ死去。遺体はフィゲラスのダリ劇場美術館に。